

「M78 星雲 光の国」との姉妹都市に未来を見た―東北支部須賀川見学会

北原 啓司 弘前大学

1. はじめに

毎年恒例となっている支部見学会は、9月17～18日の日程で、福島県須賀川市を舞台に実施された。円谷英二監督の生まれ故郷として有名な須賀川は、中心市街地の松明通りにウルトラヒーローや怪獣が立ち並び、また震災後に再建された市庁舎は「ウルトラの父」の身長と同じ高さに設計され、その“ノリ”が脚光を浴びている。

しかし近年、それ以上に注目を集めているまちづくりの動きを、学会としてじっくり学ぶことを主眼に、本見学会は企画された。そこでは、本格的なパークPFI事業である「翠ヶ丘公園」見学・解説、福島県第一号の都市再生推進法人「テダソチマ」（大木和彦社長）のミニ講演およびいくつかのリノベーション物件の見学、さらに大寺正晃市長、山寺弘司副市長との懇談、「コンパクトシティの拠点づくり」（学芸出版社）の表紙を堂々と飾った須賀川市民交流センター tette と、充実した二日間を体感することが出来た。その概要を報告する。

2. 中心市街地につながる「翠ヶ丘公園」の冒険

福島県内初のパークPFI制度活用として、株式会社あおい（菊地大介社長）と須賀川市が整備するこの公園は、具体的には、室内及び屋外のサウナ、大浴場、露天風呂、水風呂などを備えた Sauna & Spa Green の営業をスタートさせており、ユニバーサルデザインを意識したカフェには、ペットと一緒に食事を楽しむことが出来るテラスも用意されている。

一方で、日本大学工学部（郡山市）との連携により、せせらぎ水路浄化システムが適用されており、日本大学の「ロハスの花壇」の技術を用いて、新たに公園内に設けられた池の水をポンプアップして、機械での水循環をせずに、濾過と浄化を実施している。

単に活性化を目指した取り組みではなく公園自体の持続可能性を考慮した取り組みは、大いに学ぶべきもの考える。



写真1 翠ヶ丘公園の見学風景

3. 都市再生推進法人「テダソチマ」の活躍

中心市街地の再編集を手がける都市再生推進法人「テダソチマ」は、須賀川市のウォークアブルシティ戦略に絡み、所有者不明土地管理制度も視野に入れながら、空き家バンク「イエソダテ」、さらには、「空き家再生・活用プロジェクト」を着実に進めている。

「まち育て」→「テダソチマ」の命名の縁でウルトラアドバイザーを務めさせていただいている筆者であるが、常に前進しているエネルギーと一緒に視察に参加された支部会員各自に感じていただくことが出来る講話と見学であった。

サテライトオフィス palette は最初につくられた、街に開かれた「場所」である。さらにシェアスペース STEPS は利用者のライフスタイルに沿った支援やリモートワーク拠点の提供のほか、県内外からの移住や二拠点生活の相談窓口、そしてテダソチマの事務所も設置されている。

前述の Tette や須賀川観光物産館 flatto、そしてこの二つの「場所」、さらには空き店舗を活かしたチャレンジショップ「マチソダテベース」が、南北につながる松明通りに、ウルトラマンや怪獣たちと、リニアにつながる風景は、M78 星雲に負けない強い光を発していたのだった。

さらにテダソチマは、須賀川市、UR、NTT、福島大学等とエリアプラットフォームを形成し、エリア内の活動のみならず、全国に存在するエリアプラットフォームの連携を目指した活動を国土交通省の補助の元に実施しており、ますます目が離せない動きが続いていく（令和7年1月31日にフォーラムが予定されている）。

須賀川市はごく当たり前に、独自の公民連携を構築してきている。その意味では、これからも目が離せない町である。そして最後に、今回の視察企画に御協力いただいた市都市計画課および（株）テダソチマに強く謝意を表すとともに、これを読んだ皆さんが、須賀川の小さな身体の“ウルトラマン”たちに会いに行かれることを期待したい。



写真2 テダソチマ大木和夫氏の講演